

子どもが学校に行かないと言ったら・・・

不登校はどの子どもにでも起こりうる問題です。子どもが不登校の状態になった時、「なぜ学校に行かないのか」と親や保護者が責めたり、追いつめたりすることがあります。また、子育てを間違えたと思って、誰にも相談できずに、保護者が悩み苦しむことになっている現状があります。

不登校は、その原因・背景に、学校、家庭、そして社会のさまざまな問題が複雑に絡み合っており、特定の子どもに特有の問題があることによって起こるものではありません。「自分は大丈夫である」とか「うちの子や孫はしっかりしているのでそんな問題は起こらない」などと考えず、日ごろから自分のこととしてとらえておく必要があります。

福岡県と小郡市では、不登校の問題に対して「すぐに、必ず、みんなで」という合言葉で学校、家庭、地域が一体となって次のような取組みを進めています。

- ①地域の大人として、地域の子どもとあいさつを交わしましょう。
- ②家庭で役割を持たせ、家庭に貢献できていることを実感させましょう。
- ③気になることがあったら、直ちに家庭の様子を学校に伝えましょう。



家庭・地域で不登校の子どもを見守るまなざしをつくりましょう

小郡不登校を考える学習会では、8月23日(日)に西野博之さん(NPO法人フリースペースたまりば理事長)をお招きして学習会を行いました。学習会の内容から、不登校の子どもとコミュニケーションをとるための視点について、紹介します。



先回りはしない「失敗させたらかわいそう」ではない
自分で考えてものごとを決定する経験が不足してしまう。
失敗に出会った時にこそ、成長するチャンス。
子どもの育ちには無駄に見える時間やスキマも大事
大人からの期待や評価にとらわれない。
すべては生きていくためのプロセス
マイナスにしか思えない体験は、実は生きていくために
必要なプロセスです。

不登校に限らず、子どもの育ちにとって、親でも先生でもない「第3のおとな」の存在(「ナナメの関係」)が必要になってきています。地域で育ちあい、見守れるつながりが、今とても大切なのではないのでしょうか。その際に、皆さんに持っていて欲しい人権の視点は、「生きているだけですごいんだ」ということです。生命に対する尊敬が他の人権課題の解決にも必要なように…。

●問合せ先 人権・同和教育課 ☎72-2111内線532

不登校を考える学習会・りんく小郡でのサポート

市では不登校を考える学習会を行い、不登校の子どもの保護者だけでなくとどまらず家庭・地域の人へと発信をしています。また、小郡市教育センターりんく小郡では、学校に行けなくなった子どもや保護者のサポートをしています。お気軽にご相談ください。

●問合せ先 小郡市教育センターりんく小郡 ☎73-4044

